

令和4年度 第1回 笛吹市総合教育会議 議事報告

開催日時：令和4年11月4日（金） 午後2時00分 開会

開催場所：笛吹市役所市民窓口館 3階 302会議室

出席者：

構成員

役職	氏名
笛吹市長	山下 政樹
教育長	望月 栄一
教育委員	内田 淳
教育委員	飯田 多恵子
教育委員	高野 仁美
教育委員	中島 知晴

総合政策部

役職	氏名
総合政策部長	返田 典雄
政策課長	小澤 宏之
政策課主幹	荻原 昭
政策課主査	渡邊 健次

教育委員会

役職	氏名
教育部長	赤尾 好彦
教育総務課長	太田 孝生
教育総務課主幹	田中 政人
学校教育課長	長野 篤雄
学校教育課主幹	黒澤 宏至
生涯学習課長	手塚 克己
文化財課長	望月 和幸
図書館長	吉岡 浩

【進行：政策課長】

1 開会

2 市長あいさつ

本日は笛吹市総合教育会議に出席していただき感謝申し上げます。

本日の会議には2つの議題がある。一つ目は「スポーツ振興事業」である。スポーツ活動については、子どもの頃から体を動かすことを習慣化し、基礎的な体力をつけていくことが重要だと考えており、市でも様々な取組を実施しているところである。また、スポーツ振興とは話が少しずれてしまうかもしれないが、現在、国では教員の負担軽減のため、部活動の地域移行を進めている。このような国の動きを踏まえ、10年、20年先のことを見据えながら、部活動の在り方を考えていく必要があると思う。

二つ目は「春日居郷土館を拠点とした郷土学習環境の整備と学校連携」である。現在、市では、青楓美術館の機能を春日居郷土館に集約化することを検討している。この機能集約は、財政負担の軽減のためということではなく、素晴らしい青楓作品を、更に多くの人たちに広めていくための方策として考えている。このことも念頭に置く中で、春日居郷土館の取組についても、忌憚のない意見をいただきたい。

3 協議・調整事項

(1) スポーツ振興事業について（生涯学習課）

【説明】

生涯学習課長

【意見交換】

(教育長)

これまでの総合教育会議は、「学校教育」の視点での議題が多かったが、本日は大きい括りでいうと「社会教育」がテーマとなる。

スポーツ活動については、生涯に渡ってスポーツを実践する力を育てていくことが重要である。このことは学校体育の一つの目標にもなっており、市では、スポーツを実践する能力の育成に向けて、ランクリニック、ボールゲームフェスタ、アクティブチャイルドプログラムなどの事業を行っている。先日、ランクリニックに参加された児童の保護者から教育委員会に連絡があった。その内容は、「子どもが走り方の勉強をしてきたようだが、自身もトレーニングに関わる仕事をしているので、何か市の事業に協力できることはないか」というものだった。このように、本事業を契機として、地域を巻き込み活動が広がった喜ばしい事例もある。

(内田委員)

スポーツを「する」「みる」「ささえる」の視点で取組を推進しているとの説明があったが、何を目指しているのかが分かりやすく、とても良い概念だと感じた。

この概念はどのような経緯で決めたのか。

(生涯学習課長)

国のスポーツ基本計画では、「スポーツで人生が変わる」「スポーツで社会を変える」「スポーツで世界とつながる」「スポーツで未来を創る」という基本方針が

ある。これを受け、県のスポーツ推進計画では、県民誰もがいつでもどこでもスポーツに親しめる元気な山梨をつくるという考えの下、「する、みる、ささえる」という方針を出した。そのため、市のスポーツ推進計画においても、「する、みる、ささえる」を基本理念に掲げた。

(飯田委員)

ほとんどの人は走り方などを習ったことがないと思う。ランクリニックは、基本的な走り方を子どもの頃に身に着けることができる素晴らしい取組だと感じた。

先日、市民講座に走り方を学べる講座があり、興味があったので申込をしたが、多数の申込があったようで抽選漏れになってしまった。子どもの頃に走り方を教えてもらうことがベストだが、このように大人になってからでも学べる機会があるのは嬉しく思う。引き続き、市民の健康増進のために、同様の取組をしてほしい。

アクティブチャイルドプログラムについては、運動の苦手な子どもたちが積極的に運動に取り組むきっかけとなる事業だと思う。生涯スポーツのためには、子どもの頃に体を動かすことが楽しいと思える経験をすることが重要だと思う。昔は普段の遊びの中でそういうことを覚えていたが、今は子どもたちの遊べる場が以前よりも少ないので、このような取組はありがたい。

(中島委員)

年間を通してスポーツ振興に関する様々な事業を展開してもらい、感謝している。耳にしたことがある人もいると思うが、「ゆるスポーツ」という新スポーツがある。これは、年齢・性別・運動神経に関わらず、誰もがスポーツに参加し楽しめるよう、様々な競技を形を変えて行うもので、例えば卓球だと、得意な人は真ん中に穴が開いたラケットを使用する。この「ゆるスポーツ」を、市の取組や学校の授業で取り入れることも良いと思う。誰もがスポーツに参加できるような機会を設けることで、運動が苦手な子どもでも、体を動かすことを楽しめるはずである。

先ほど飯田委員からも話があったが、自身が小学生の頃は、学校が終わった後、校庭や近くの公園、空き地で遊ぶことができたが、現在はそのような場所が少ないように感じる。笛吹みんなの広場などの広い公園を整備することも大変ありがたいが、各地域に小さくてもいいので子どもたちが安心して遊べるような場所を多く作ってほしい。

また、歩道の整備も大事だと思う。昔と比べると車両の交通量が増えており、歩道のない道だと、子どもたちが移動するのに危険だと思う。歩道の整備は、安全確保のほか、ウォーキングやサイクリングなど、スポーツを楽しむ機会の増加にもつながるはずである。

(高野委員)

自身が子どもの頃はどうかだったかと思い起こしてみると、暗くなるまで友達と外で遊んでいることが多かった。一方、現在の子どもたちは、家の中でゲームをして遊ぶことが主流になっていると感じる。ゲームを通じて友達が増えるなど、良い面があるとは思いますが、やはり外で遊ぶことが一番だと思うので、子どもたちをいかにして外に出すかということも大きな課題の一つだと思う。

(生涯学習課長)

中島委員から話のあった「ゆるスポーツ」については初めて耳にしたが、スポーツ振興のためには、高齢者や障がい者などを含め、誰もがスポーツを楽しめるよう取り組んでいくことが必要であると考えている。今すぐには難しいかもしれないが、検討していく。

(市長)

「ゆるスポーツ」については、しっかり研究すること。

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたこともあり、子どもたちが外で遊ぶ姿が目立つようになってきた。市内の公園は、たくさんの親子連れで賑わっている。小林公園は、遊具やトイレを整備したところ、多くの人を訪れている。また、清流公園では、多くの子どもたちがボールを蹴ったり、キャッチボールをしたりして楽しんでいる。中島委員から、子どもたちの遊び場の話がでたが、環境は整っていると思う。本来であれば放課後に学校で体を動かせば一番良いが、それも現在では難しい。今後、体を動かす場所をどのように提供していくかを、考えていく必要があると思う。

歩道整備については、一度にできないので、少しずつ進めていきたい。

子どもたちを外に出す取組については、施設整備をすれば子どもたちがゲームをやめて遊びにくるのかといえば、必ずしもそうではない。20年以上前から、子どもたちがゲームばかりして、外で遊ばなくなったということは言われていたので、難しい問題である。

子どもたちの遊び場については、学校現場ではどのような状況か。

(内田委員)

小学校へ勤務した時には、安全のために児童は集団下校していたので、児童が放課後に学校で遊ぶことはできなかった。その代わりに、午前中の20分休みなどには、多くの児童が校庭に出て遊んでいた。

(教育長)

多くの小学校では、児童の安全確保のために集団下校を実施しているため、放課後の活動ができないという課題がある。一方、児童が遊び方そのものを知らないという現状もあるので、学校では、ボールゲームの紹介など、工夫しながら遊びの機会をたくさん設けている。

市でもボールゲームフェスタ等の事業を実施し、親子が一緒に楽しめる場を提供している。引き続き、保護者の手も借りる中で、子どもたちが少しでも外へ出て遊ぶよう、取り組んでいきたい。

(2) 春日居郷土館を拠点とした郷土学習環境の整備と学校連携について(文化財課)

【説明】

文化財課長

【意見交換】

(高野委員)

小学校の授業の一環として、春日居郷土館を何度か訪れたことがある。その際、施設の学芸員に文化財の説明をしてもらったが、話が難しく感じた児童もいたようである。今回、子どもたちにも興味関心が得られやすいような環境づくりを進めているという話を聞き、ありがたく思う。

また、土器の復元体験は、とても良い取組である。復元の作業工程なども見学できるようにすると、興味を持つ人も更に多くなるのではないか。

(中島委員)

春日居郷土館はとても良い施設だが、施設内の照明が暗いと感じる。

例えば、御坂図書館に入ると、明るい気持ちになり、ずっとここにいたいという気持ちになる。一方、春日居郷土館については、施設に入った瞬間の印象が暗いため、子どもたちが積極的に学びたいという気持ちにならないと思う。照明が明るいことだけが全てではなく、その場に適した照度や雰囲気づくりがあることを承知しているが、壁や展示の仕方などを工夫するだけでも、施設の印象は変わってくると思う。

また、春日居郷土館において、子どもの作品を展示する機会を多く持つと、その子どもの家族が作品を見るために施設を訪れるので、来館者数も増えていくのではないか。その際、春日居地区の子どもに絞らずに、町外の子どもの作品も展示する方が効果的だと思う。

数年前に、親子で参加するウォークラリーに参加させてもらった。その際、学芸員から、その場所の歴史的な経緯等の説明があり、新たな知識を得る良い機会となった。このような取組をきっかけに、子どもたちの興味も湧いてくると感じた。

(飯田委員)

文化施設が抱える課題に対応していくための具体的な取組の説明があったが、企画倒れにならないよう、しっかり取り組むとともに、一つでも多く実現してほしい。

郷土学習の必要性の説明の中で、「郷土の画家の作品を鑑賞する」とあったが、これは青楓作品のことだけでなく、郷土の様々な画家のことを指しているのか。

(文化財課長)

そのとおり。

本市出身の画家としては、例えば、穴山勝堂氏や高野史静氏がいる。

(飯田委員)

穴山勝堂氏の作品を御坂図書館に保管しているという話を聞いたが本当か。

(文化財課長)

そのとおり。

学びの杜の一部屋に、万全な状態で保管している。

(飯田委員)

万全な状態というのは、収蔵庫のように湿度や温度がきちんとした場で保管しているということか。

(文化財課長)

そのとおり。

(飯田委員)

収蔵庫の改修については、ぜひ取り組んでもらいたい。絵画などの美術品を収蔵するためには、それに適した湿度や温度の管理が必要不可欠である。

先ほど、高野委員から、学芸員の説明が難しいとの意見が出されたが、学芸員に対し、分かりやすい説明をお願いすれば、簡単な内容から説明をしてくれるはずである。

青楓美術館については、会議冒頭で市長の考えを聞くことができ、良かった。青楓美術館は老朽化しており、美術品を展示するには手狭と感じていた。素晴らしい美術館ではあるものの、建物に課題がある。あの場所で存続してほしいという地域住民の気持ちもよく分かるが、環境が整っている春日居郷土館に集約化したほうが良いと思う。

(内田委員)

文化施設の来館者数の増加に向けては、子どもの作品を展示することが効果的との意見が中島委員からあった。私もそのとおりだと思う。私自身、孫の作品を見るために、釈迦堂遺跡博物館を訪れたことがある。

また、県外の学校への呼びかけも効果的だと思う。東京都や神奈川県内の学校は、林間学校で八ヶ岳をよく訪れるが、雨が降った場合のプログラムをどう

するのかといったことが課題となっているようである。そういった時に、春日居郷土館や釈迦堂遺跡博物館などに来てもらうことも一案だと思う。

(市長)

今月中旬に東京の大手旅行会社を訪問し、観光客の誘客に向けたセールスを行うので、その際にピーアールする。文化財課は資料を用意すること。

(文化財課長)

承知した。

(内田委員)

中央自動車道のパーキングエリアや JR 中央本線の駅などに、企画展のポスターを掲示することも、多くの人の目に触れて効果的だと思う。

校外学習の一環として、釈迦堂遺跡博物館などに行き勉強する機会をつくることも良いと思う。本物を見ながら、専門的な知識を持った学芸員にその場で説明を聞くことは、とても大切なことであり、理解も深まる。

先ほどリモート授業や出前授業の話が出たが、これもとても良い取組だと思うので、事前の準備などが大変かもしれないが、ぜひ実現してほしい。学校では、どのような方に指導をお願いするか手探りでを行っている状況なので、市役所側から学校に対し、できることを提案していただけると、学校現場としてはとてもありがたい。

(教育長)

様々な意見をいただき感謝する。企画倒れにならないようにとの意見もいただいたので、具体化に向けて研究をしていきたい。今回、春日居郷土館で津田青楓展を開催し、文化財課と学校教育課で作成した参加の手引きを学校に渡して、活用に向けて働きかけを行った。その結果、いくつかの学校が、図工美術の鑑賞や国語の鑑賞作文などのために来館した。

釈迦堂遺跡博物館についても、新型コロナウイルスの影響もあり、来館者数が低迷しているので、より多くの方に来館していただけるようピーアールしていきたい。

先ほど話に出たように、本物を見るということが非常に大事なことだと思うので、子どもたちの学びが更に広がるよう、文化施設の運営等を考えていきたい。

4 その他

(内田委員)

学校トイレの洋式化については、とても良い取組で、ありがたく思っている。

(市長)

今後のスケジュールを教育委員会から説明してほしい。

(教育総務課長)

学校トイレの洋式化については、12月に業者を決め、順次着工していく。令和6年10月末を工期としているが、なるべく早く終わらせるよう、業者に依頼する。

(飯田委員)

青楓美術館について、以前は昼休み1時間を休館としていたが、市に改善を申し入れる中で、現在は昼休みも開館していると聞き、安堵した。昼休みの時間帯に来館する人もいると思うので、今後も開けていただけるよう、強く要望する。

また、青楓美術館は、施設入口の門にブザーがあり、それを鳴らせば、門を開けてくれるというシステムであるが、これだと施設に入りづらい。青楓美術館のスタッフに理由を尋ねたところ、スタッフが2階で作業などを行っている際でも入館したことが分かるよう、防犯上の観点からブザーを設置しているとの返答があった。例えば、カメラやセンサーで入館したことが分かるようにするなど、改善が必要だと思う。ぜひ、開かれた美術館であってほしい。

5 閉会

午後3時35分 閉会